

◆経済倶楽部講演会第4455回（5月12日）

グローバルインフレと銀行破綻の行方 ―「成長の臨界」にどう対応するか

BNPパリバ証券チーフエコノミスト
河野こうの
龍太郎りゅうたろう

- *コロナ対応による大規模財政のツケ
- *金融システム安定化優先でインフレ加速も
- *高まる財政インフレリスク
- *低成長・円安インフレが到来か
- *何もしない経営に戻ってはいけない
- *企業の抱えるイノベーションのジレンマ
- *社会保険料の引き上げが遠因か
- *何の効果も生まなかった異次元緩和
- *グローバルインフレと日銀の対応
- *小刻みかつ間隔を置いた消費増税



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、ほぼ1年ぶりだと思えますが、河野龍太郎さんにおいでいただきました。毎年世界の金融と経済について明快にお話しをいただいております。

1964年のお生まれで、横浜国大をご卒業後、住友銀行その他を経て、BNPパリバでエコノミストをされておられます。

本日は、アメリカの銀行破綻もありますし、世界のインフレの中で日本だけが金融緩和を続けているわけで、この辺の全体の図式をわかりやすくご説明をいただけたと思います。

それでは河野さん、よろしく願いいたします。（拍手）

コロナ対応による大規模財政のツケ

河野 皆さんこんにちは。BNPパリバ証券チーフエコノミストの河野龍太郎です。今から7分お話をいたします。よろしく申し上げます。

まず、ちょっと宣伝なんです。昨年7月に慶應義塾大学出版会より『成長の臨界』という本を書きました。財政、金融とか貿易、国際金融システムだけでなく、日本の経済構造の話であるとか、経済、政治にかかわらず、たとえば心理学とか文化人類学とか社会学とか生物進化学といったような論点も含めまして、1000年、2000年の話を書いておりますので、ぜひ皆さん読んでいただければと思います。今日は、この本の中から足元の経済を読むために